

教師ノート

日付	2014年 3月 2日
単元	詩篇と預言者
テーマ	神の召しと愛
タイトル	魚にのみこまれたヨナ
テキスト	ヨナ1章～4章
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) Ⅱ ペテロ3:9b
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	幼1巻1題12課 、 小下1巻4題2課

メモ(情報・例話など)

神さまはどんな人も悔い改めるように願っておられるのです！

ヨナが、神の召しから逃れようとしたのは、ヨナがユダヤ人以外の民族が救われることを、不快に思ったからです(ニネベ宣教の困難や迫害から逃げたのではありません)。私たち人間はみな、ヨナと同様に、偏向で嫉妬心が強く、狭量な者です。それに対して、神はなんとあわれみ豊かで、寛容と忍耐に満ちておられるのでしょうか！神はどんな人にも救われて欲しいと願っておられるのです。子どもたちに非常に人気のあるヨナのストーリーを、楽しく、かつ正しく伝えましょう。

□導入 興味を起す質問をしましょう。

小魚をパクパク食べるのが好きな人はいますか？逆に魚にパクッと飲み込まれたことがある人は・・・？今日は魚に飲み込まれたヨナさんのお話だよ。

□ポイント1 神さまはヨナにニネベで預言をする使命を与えられましたが、ヨナは逃げようとして(1章)

神はヨナに、「立って、悪の増大するニネベという巨大都市に行き、その民に向かって罪を悔い改めるように叫びなさい」との使命を託されました。しかしヨナは、その命令に背き、主から逃れようとして、船でタルシシュへ向かいます。ヨナがニネベの異教の民に預言を伝えると、彼らが悔い改めて、神に救われるかもしれません。ヨナはそれがイヤだったのです(ヨナは、神に愛されているのは、ユダヤ人だけだと思っていました)。神は、大自然を動かして、ヨナに迫ります。激しい嵐によって船が難破しそうになったので、船員たちは必死でした。クジが当たったので、人々はヨナを追及しました。ヨナがヘブル人だと分かると、人々は嵐の原因がヨナであると確信し、恐れました(イスラエルの神の偉大さは、異教の国の人々にも知られていたのでしょうか)。そこでヨナは自分を海に投げ入れるようにと言いました(抵抗をあきらめたのか、自分を犠牲にして他の人を助けようとしたのかは不明ですが)。ヨナが海へ投げ込まれると、たちまち海は静かになりました。主は大きな魚を備えて、ヨナをのみこませました。

📍ニネベ:ティグリス川上流の巨大な都市。アッシリヤ王国の首都。

🎲くじについて:古代の人々は神意を知るために、くじや占いを利用しました。聖書の中でも、人々がくじを利用する場面は何度も登場します(例=民数記27:21、エズラ2:63、マタイ27:35、使徒1:26など)。ヨナ1:7では、異教的な発想でクジを使っていますが、全能の神は、それさえも用いて御心をあらわされました。神はくじを通して答えを与えることも、与えないことも、どちらもおできになる方です。子どもたちには、祈りとみことばによって御心を求めるべきことを教えましょう。

☆みんなで自由に想像して、発表してみよう！①ヨナはどうして、船が難破しそうなのに、船底で寝込んでいたのでしょうか？(神がヨナのために嵐を起しているとわかっていた・とことん神に逆らおうとする姿勢・ニネベに行くくらいなら死んでもイイという開き直った態度・・・など)②魚のお腹の中は、どんな居心地か、想像してみよう(暗い・くさい・ヌルヌル・・・など)

□ポイント2 ヨナは神さまがニネベを滅ぼすのをおやめになったことに対して怒りました(2-3章)

ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいました(前章17節)。神は、不従順であったヨナを、助けてくださったのです。それは、彼を悔い改めに導くためでもありました。ヨナは海に入れられて、すぐに魚に飲み込まれたわけではありません。深く波にもまれて沈み、海底の草・海底山脈の下でかんぬきで閉じられたように動けなかったようです(5-6節)。そこから救われ、魚の腹の中に入れられたヨナは、真心からの悔い改め・感謝・決心の祈りをしました。その祈りに応え「主は、魚に命じ、ヨナを陸地に吐き出させ」ました。その後、神は再びヨナに召しを与えられました。彼は今度こそ、「主のことばどおり」ニネベへ行きました。そして、ひたすら1日中歩き回り、「神がこの町を滅ぼされる」と叫びました。すると、ニネベの町の全員に驚くべき悔い改めが起こりました。そして王が布告を出して、獣・家畜に及ぶまで、悔い改めを命じました。神は、彼らが悪の道から立ち返るために真剣に努力している心をご覧になり、思い直してわざわざいを下すのをやめてくださいました。

☞ 荒布をかぶる: 黒い布をまとして深い悲しみ・嘆きを表すこと(ヨエル1:8)。断食をしたこともあわせて、この時ニネベの民がみな徹底的に悔い改めたことを示します(ヨエル2:12)。

☞ 獣・家畜も悔い改める? 動物がお祈りをするという意味ではないでしょう。ニネベが滅ぼされるとしたら、家畜もすべて滅ぼされるという考えから、動物も同様に荒布をまとわせ、餌を与えなかったのでしょうか。

□ポイント3 神さまは、ヨナに、神さまが人の命を大切に思っておられることを教えられました(4章)

ところがヨナは、神が選民であるユダヤ人以外の民にあわれみを注がれたことに対して、強い不満をあらわします。神はどんな人にも悔い改めて救われるようお願い、あわれみ豊かに私たちを待ってくださっています(エゼキエル 33:11、IIペテロ 3:9)。しかし、ヨナは心が狭く、偏った考えをもっていたのです。彼は預言どおりに神がニネベを滅ぼさなかったことに激しく怒っています。神は、それに対して「あなたのその怒りは、正当だと思っているのか?」と諭し気付かせようとされました。一方ヨナは、町を見渡せる場所に仮小屋を建てて40日そこにとどまり、神がニネベをどのように処されるかを見届けようと思いました。神は、「とうごま」という植物で、ヨナを灼熱から守ることによって、彼を不機嫌から救おうとされました。ヨナはそれを喜びましたが、神の本来の意図には気が付きませんでした。そこでさらにヨナを訓戒するために、神は虫を備え、とうごまを枯らしてしまわれました。神は、ヨナが何の苦勞もせず得た1本のとうごまと、神が労して生み育てたニネベの民の命とを対照しながら、ヨナを諭されました。ヨナがそのとうごまを惜しむのなら、まして神がニネベの民を惜しまないはずがあるろうかと。神は私たちひとりひとりを創り、命を与え、育ててくださいました。だれもが神の目にはオンリー1の価値があり、大切なのです。神はどんな悪者も大切に思い、分け隔てなく、慈愛と忍耐と寛容を注いで下さるのです。

□結論 神さまはどんな人も悔い改めるように願っておられるのです

暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1) 神さまのみことばに素直に従える人になろう。神さまはあなたに特別な計画・使命を与えてくださいます。そのとおりに歩む人になろう。たとえヨナのように失敗しても大丈夫だよ。みこころに従って歩む人を、神さまは必ず守ってくださいます。

例2) 神さまは、どんな人でも悔い改めて救われることを望んでおられます。神さまにとって、ひとりひとりの命が高価で尊いのです。あなたも、そのような神さまの愛の目線でお友だちを見れるようになる。それが宣教のスタートです。神さまが、どんな人でも救われてほしいと願っているから、私たちはその愛を伝えるのです。神さまの愛に感謝し、ヨナのように自分のことばかり考えるのはやめよう。

例3) あなたは、ヨナが魚のお腹の中に3日間いたことや、とうごまが短期間で大きくなったことを信じますか? 聖書に書いてあることを素直に信じよう! 何でもできる神さまをほめたたえよう! キミの身の回りにも奇蹟は起こるよ!